嘉名世美
八犬傳 廿一
第

曲亭
琴童 著

一勇斎
国芳 画

文溪堂

へ13
3701
17

門へ13
號3701
卷17

経傳史子を讀んで苦学年を積ざれバその理を窮むること難し。ちなみに男子こ
生れてものいまだ聖教を聽けるあり。況や婦幼とを。人の善悪を見ること我もとの善
あることを思ひ又悪事を見て懼れ慎むこと善悪をへて吾師人果敢なく菓子
物語も経史の意味を失ハでよく懲戒を平〻まねまび世の蔬麦をとぶも辨へぬ
婦幼の教草りゆ是ハ増さ捷経〻。とたちのこと祖父の夜話ハ折々聞なる
呼ぶまび耳底ハ残りて忘れもせぬ去々歳の冬よりしてとの合巻ハ筆採
初ても本文ハ只原書の抄録切て序文ハ櫻花丹楓見せんとありへど拙き
す。飾るよりもの綾錦なりと早き月と日の。学の暇燈を掲げてもてハ世一編
いと鳴呼ゲまりた序角きハ奈良茶屋の煮豆去歳の餅固くらしいと
看官の厭ふべしとハ百も承知なり。三文の智恵もあけまど千慮の一得あ
まりと思ふだろうハ自序まとめ

嘉永六癸丑年冬稿成同七甲寅秋新刻

曲亭琴童識

琴童

里見の五犬君濱路姫

古今集第五

武田の信昌

濱
出

信

道
信
大
丈

つき　主君の

曲亭琴童抄録

一勇齋國芳画

東都書林　文溪堂　大傳馬町三丁目　丁子屋平兵衛

清香　梅紅雪　一包　價七十二銅

奇薬

梅の葉　長橋　徳利箱入　價六十四銅

御顔の薬　化粧水

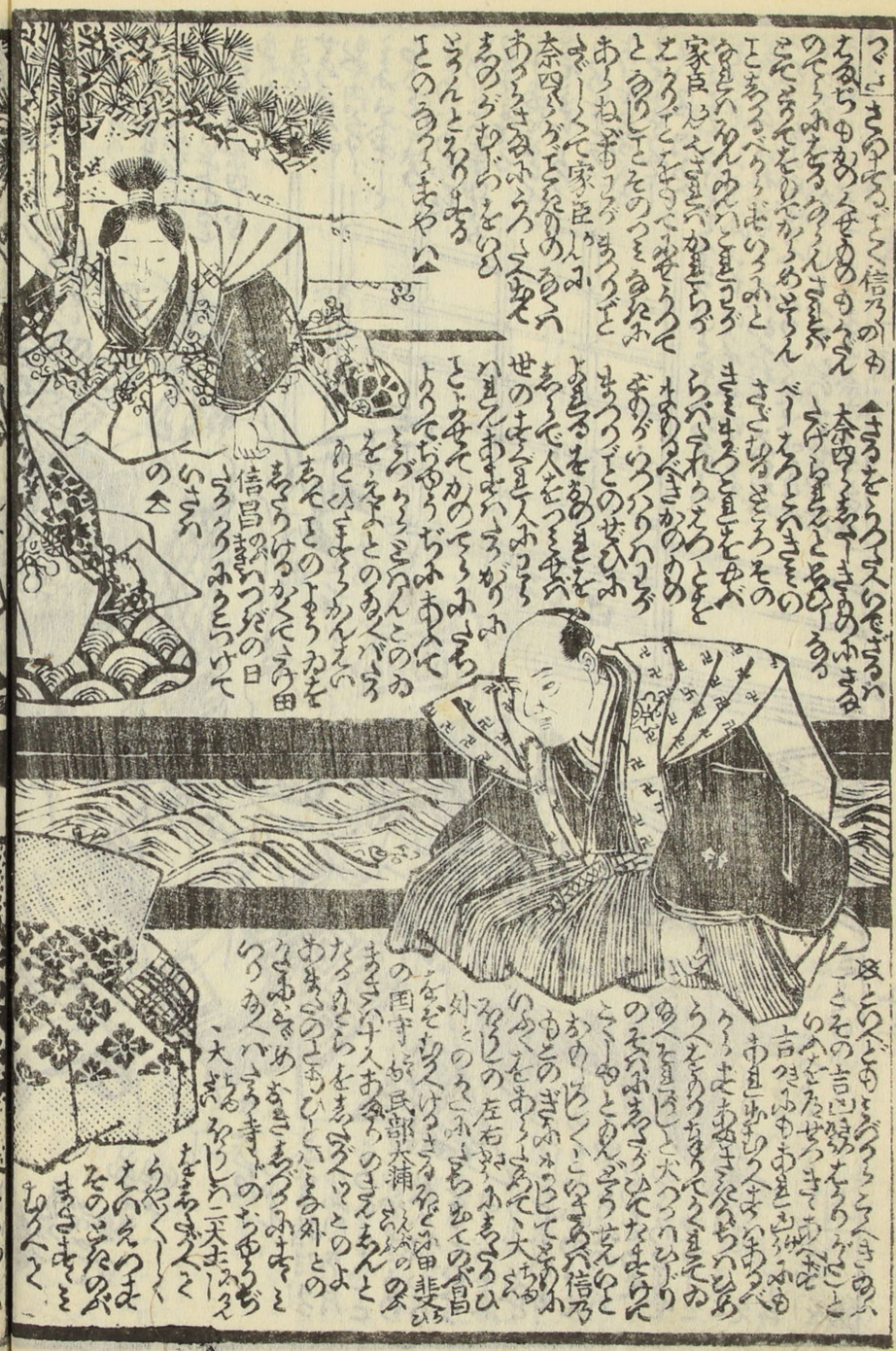
朝ぢらし　一名江戸市川團　代百銅

文溪堂梓

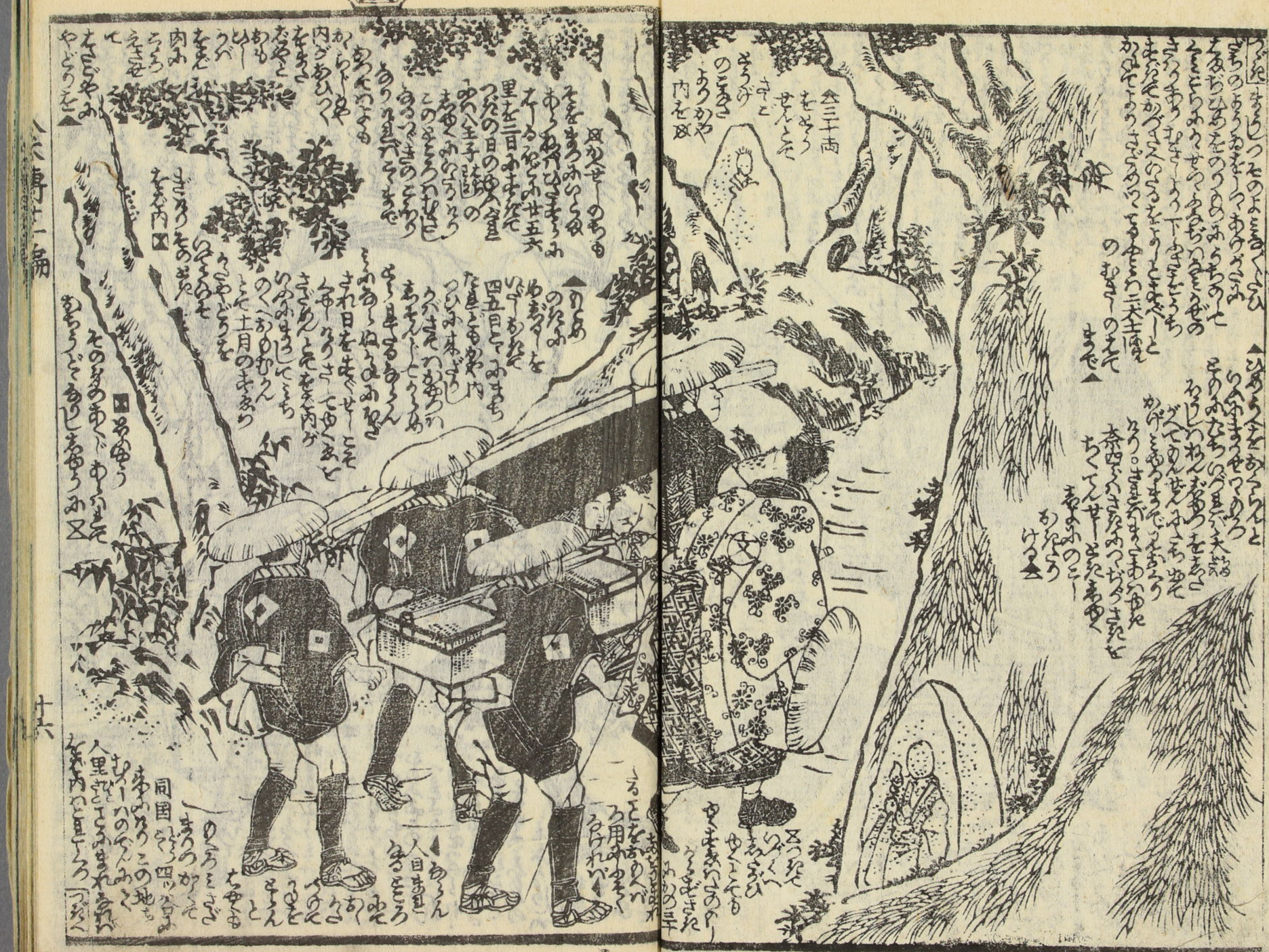
かつぬまの八大傳二十番
十一番上
世子琴之春地
一勇高國芳画
十一番下

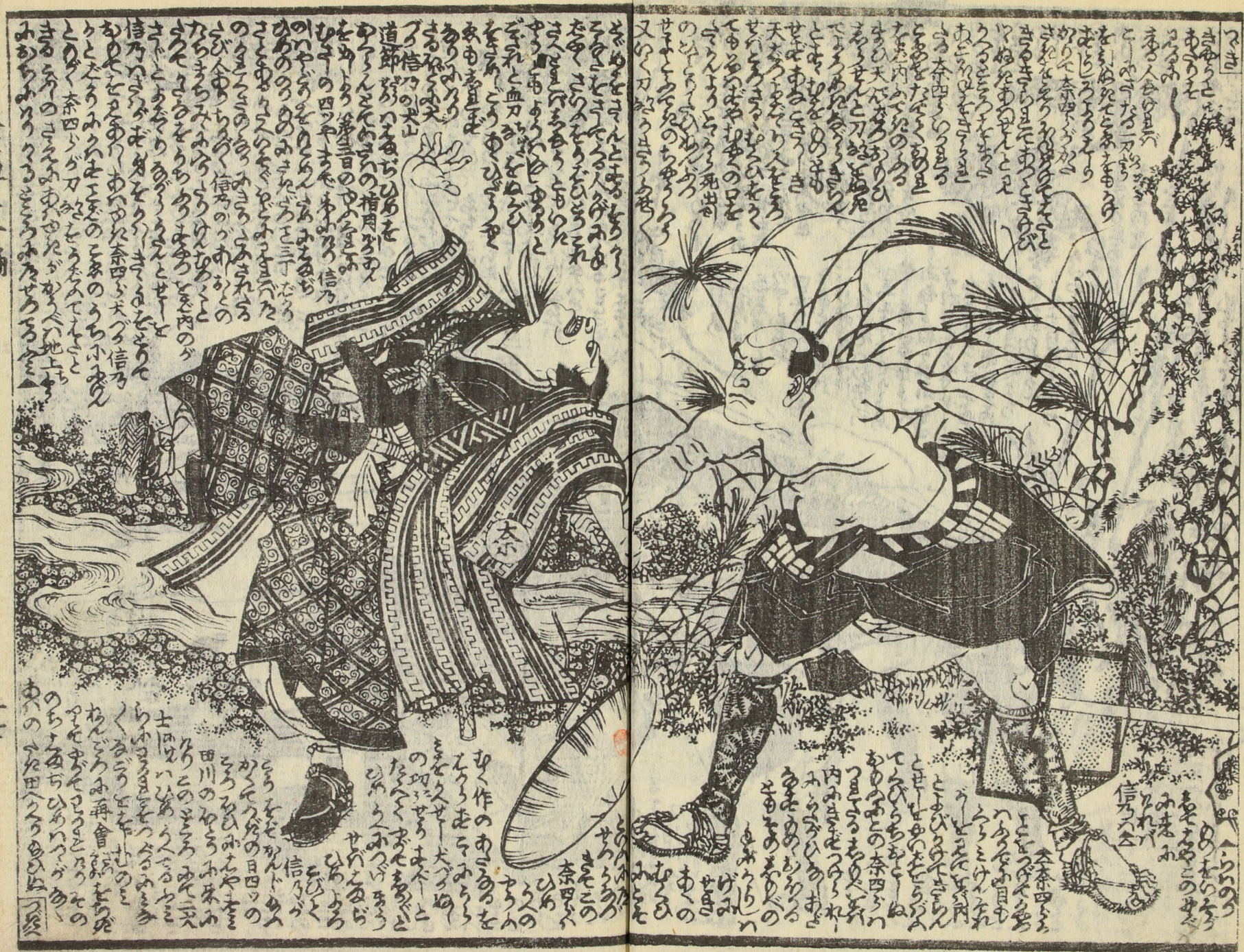
曲亭琴童作
一勇斎国芳画

仮名讀
八犬傳
二十一編
文渡堂梓



信
道


三十両をそうせんとそ
さてとそうげのこゝろさ
よろかや内をゑ


つぎ
信乃八犬
太郎

信
奈

家傳神女湯 一包代百文
婦人産後の血の乱法清の妙薬
熊膽黒丸子 一包代五分
婦人産後虫の妙薬 一包代五文
製藥本家 瀧澤氏
弘處 元飯田町中坂下男の向

曲亭琴童抄錄

男齋國芳画

東都書林 文溪堂 大傳馬町三丁目 丁子屋平兵衛

神方 ほけどくだみ茶 一包代三十文

湯やけどのこの種あり。治せざれば痕となるこの茶を用ゆれば痕消る。

かんの茶 一包二百文 半包百文 小包八十文

小児の病毒を治し、諸人の病毒を治し、腹痛を治し、婦人産後五癖及び産後五癖を治す。

懷中白粉 玉艶紙 一帖 價四十文

玉艶紙は化粧の用に成るべし。

花は盛りの月は隈なきをのみ観るめうへと。又ぶ岡の畸人いはく。二五の月の圓なるも。翌夜はやゝ虧るゝ近く。盛昌の花の旬もうるへ卻て衰謝ゝ遠ゝ。物皆必盛衰あり。唐山の最上世。堯舜禹の三聖相美く極盛の時ゝとゝ。洪水の害三苗の乱あり。彼我國們の類ひもあらぬ此大皇國は八百萬千萬世まで長久ゝ。栄えもく今の御代の盛昌なる。日月とともに限りなし。諺説ゝのみ聞く古への修羅の鼓ゝ。変て腹鼓打つ國人は理義ゝ聰明く才長きう。然まで俺ゝ愚人もその大徳沢よ漏ざーて。静けき菴の机ゝ坐ひ見ぬ世の人を友とするもゝと過分き太平の樂民うきと思ふゝもうれ。餘うある古へ書ゝを知りつ今の世のひと有難ゝを自祝ゝ愚心を憚らむ。此合巻ゝ序まること爾り

嘉永八年乙卯春新鐫

曲亭琴童誌

琴童
石亀屋
太次郎

琴童題詠
再出
大田
小文吾
虫ヶ船宮

渭

次
小

八犬傳第二編

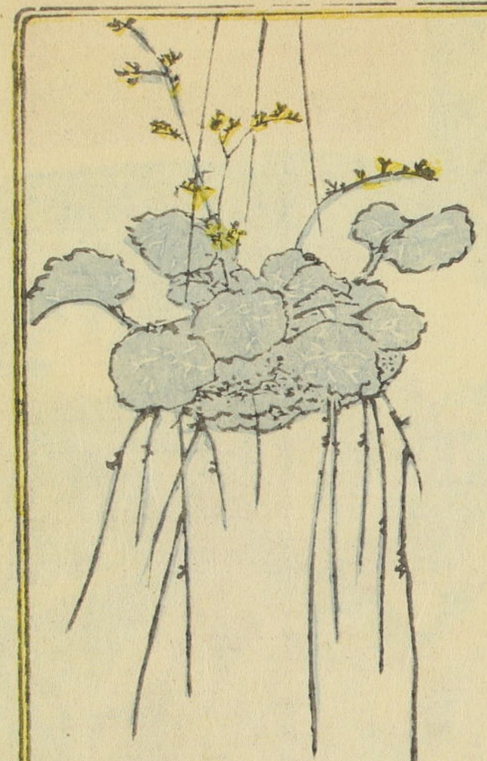
八犬傳第二編
十

琴童抄錄

國芳画圖

假名讀八犬士傳

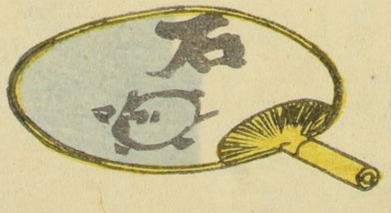
第三十七編



吹きもみ
ハらん侍
二十三篇

文淡堂梓

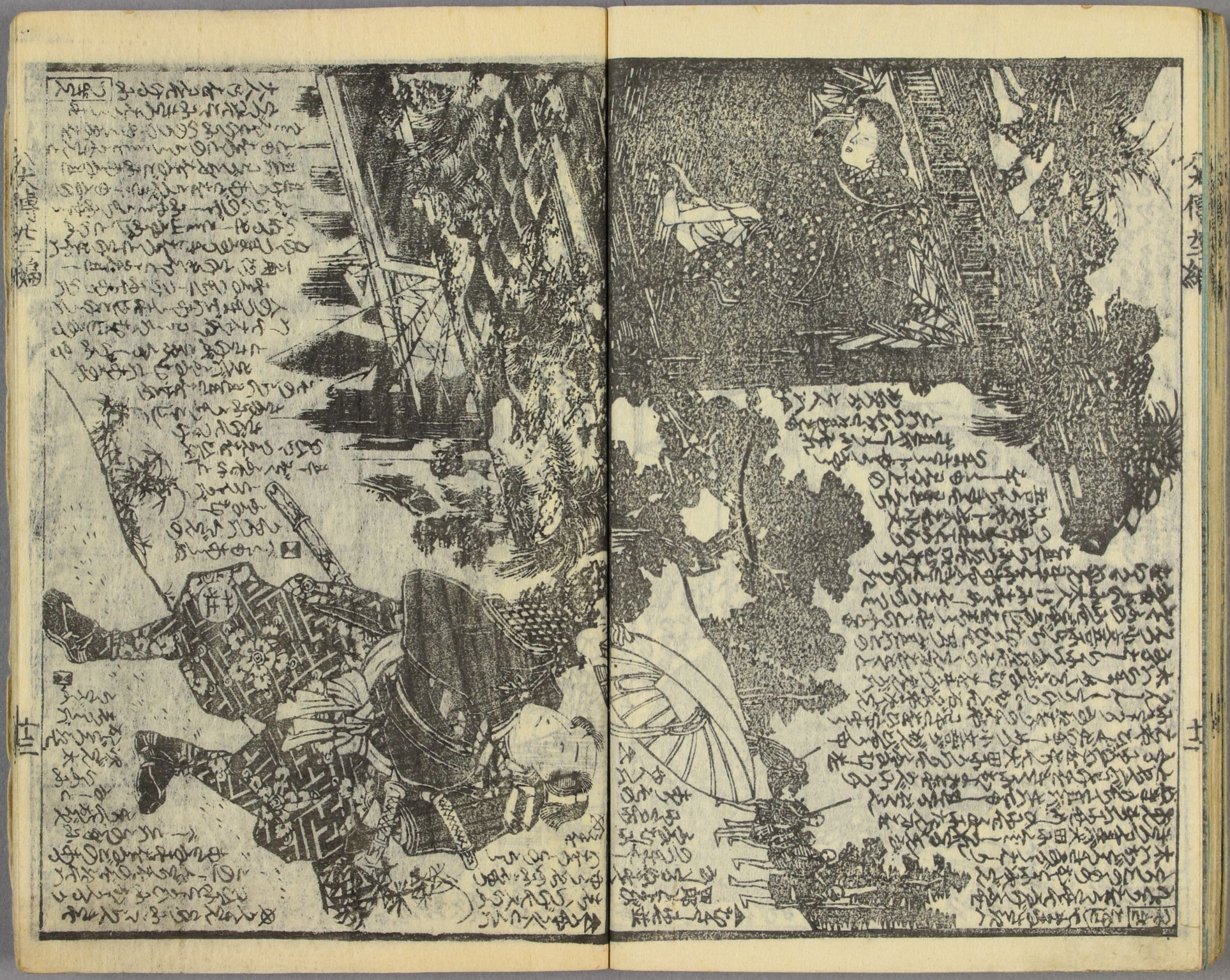
秀章作
國芳画

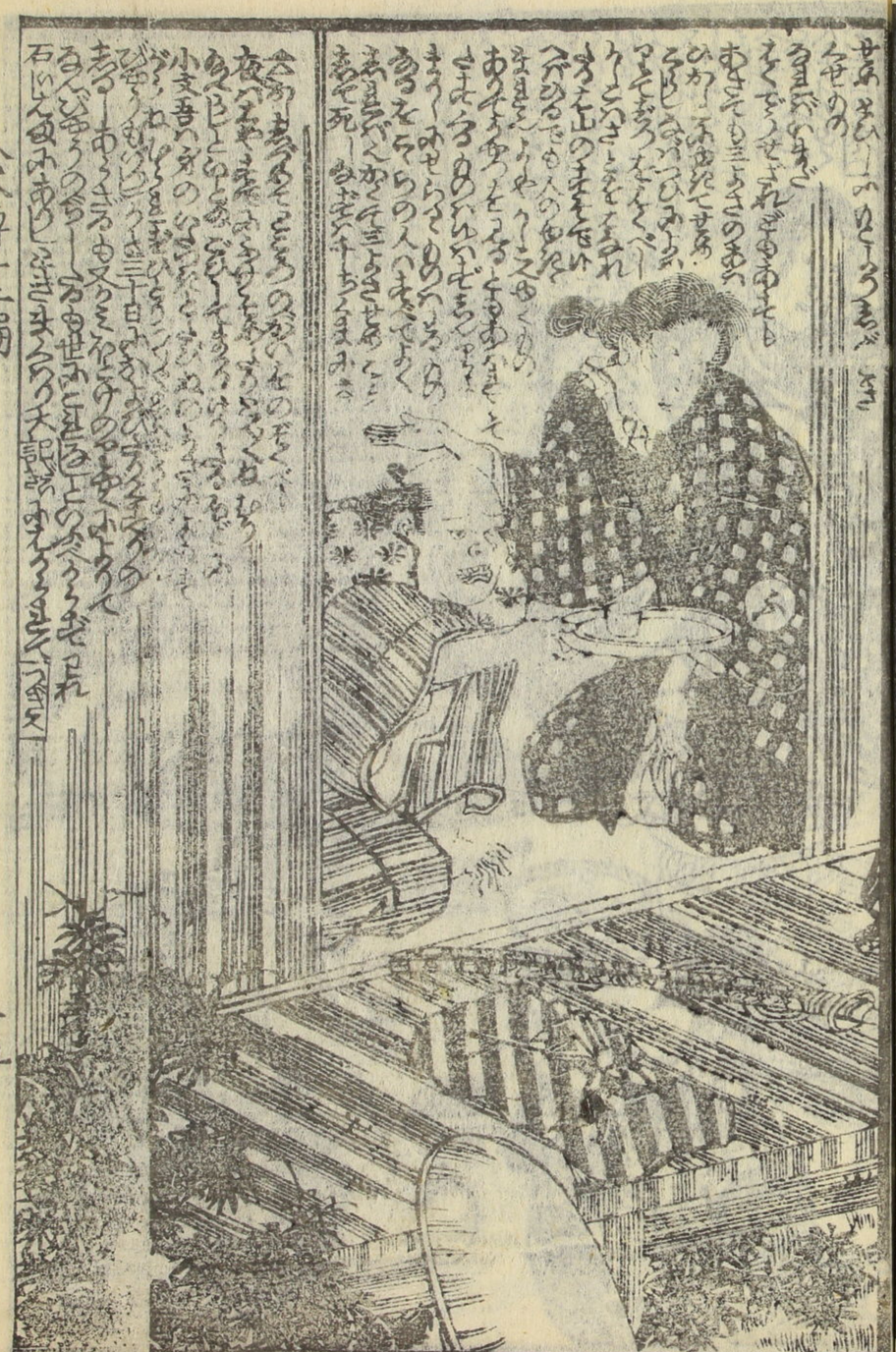


世多秀壹作
一寸高周芳重
俳名漢
文伝
二十二番
上
下

かりがね
八犬傳
二十二回
琴壺比
玉芳画
文溪堂

二の巻
八犬傳

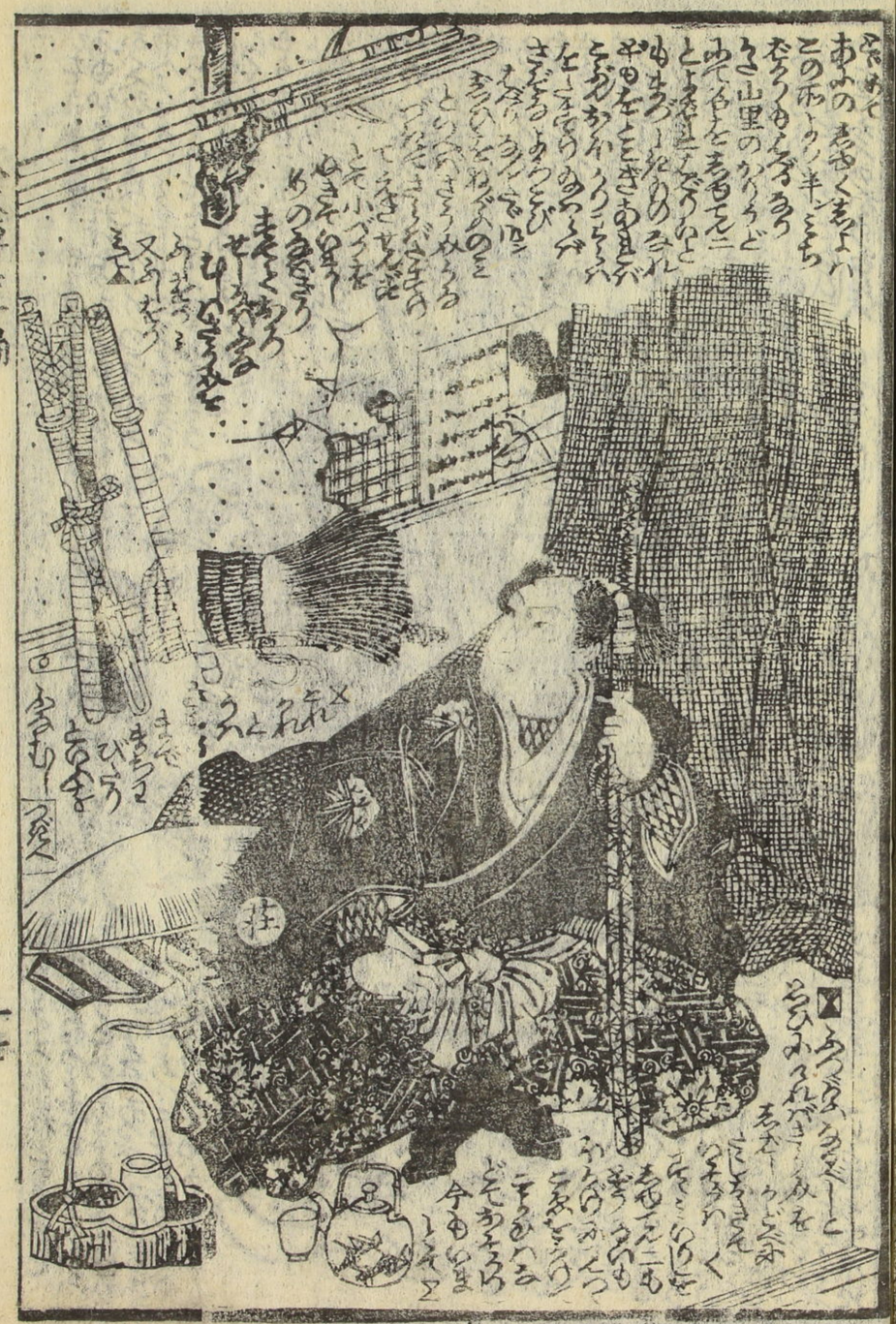




つぎ　ぐづのせらは是ーとまりしもさーどう
ひきうの手をうるがらくつうぢーちくうまうり
さ今も又是きくのきくをいのるみまれ
とはしーとまるのえもちくまをいどてまをとを
うのまがるづまるのくまをれつまうをくーり
そきさるくさちまうまるまるのうまるみ
あうるもあざちうみまとーるびうろ
こびいさまそあまとこそかの
あまざうるのひかとうみを
ごせのうるをりうくるり
ろうるをうきもーと
うるハひののちうとそろ
の夜ひうくるちまりけ
ちうねもとうのうる
ひくとうーを
れびくみつきみくう
ひてみまさ大川のは
甚ゑまりよーうい
さうるは大山ゑ道節ちう
とりうとりのみひいのうあくび
ねをーていさいの猪月ぢりあくみ
やとり夜ー、大ちりる
文化ふこのちうーく
しびうくーきう
をうしうりしを
又道節ちう
とうんうふーて
大士りりのあく
今を四の巻へ

三の巻へうつる

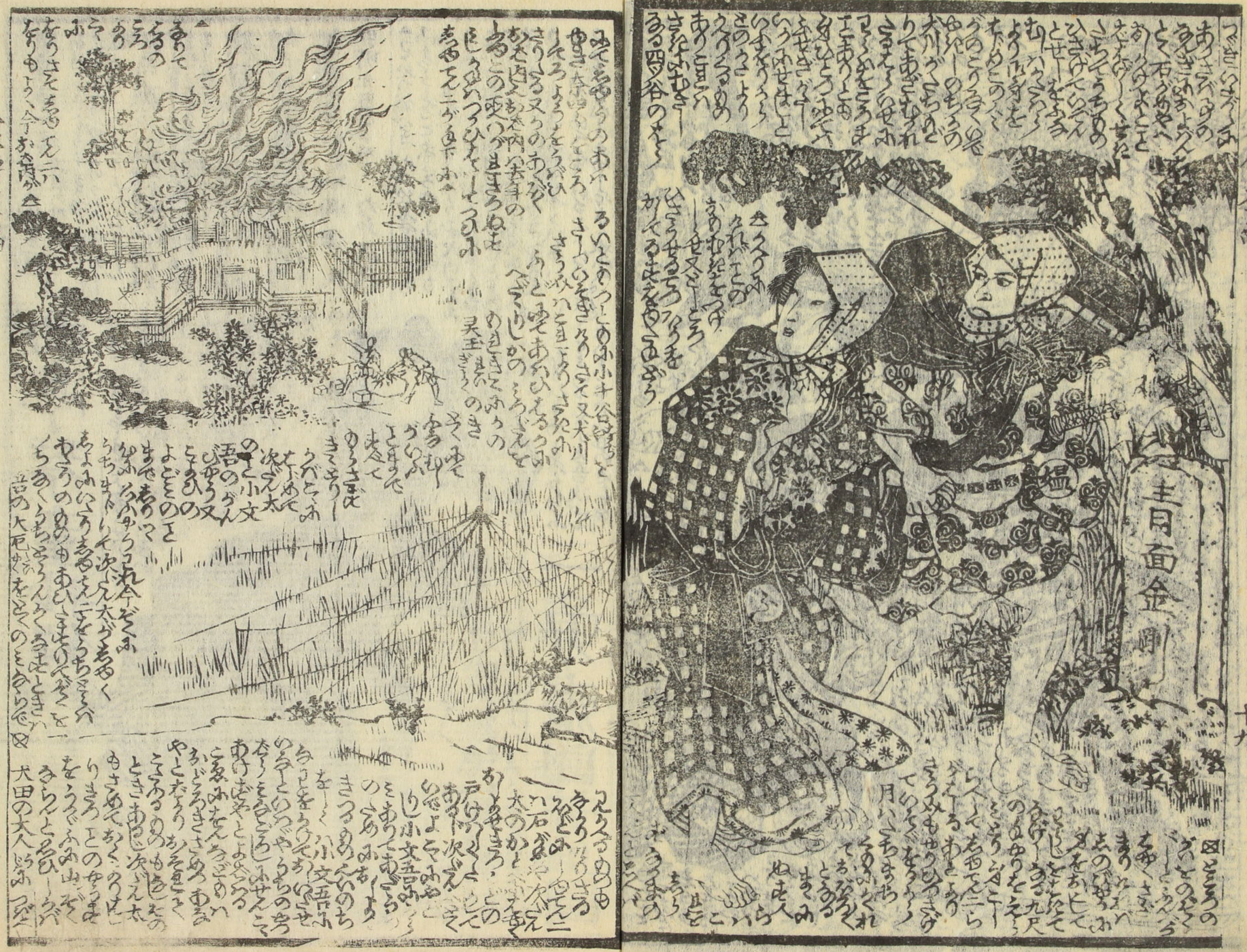
さて文化の五年てのの三月入り
猪月ろのをちを東
北ぢ　ちうるあくをあみ
まーしてあくるとみうるる
人みえもありびいとてびい
えもちびありのしてみうるい
まーきをうるもをを六月
みうびあるりみうるうも
つきううーるーきうの手う
めーしくーれるーとうーー十合の
月ゑーきうみ山のーちみのうが
うみやーるみあるーういが
ーうりあうーとうのいやーを
ーうりをーとううーを邑あのを
ーをうーうーるーうーうーかを
ーうーとあーーまー
ーびーうのものまみて
まれうーー月ーびみ
ようるーけうーまーるーうーー
とーまーきーーーーーーを
出てみーーうーうーみーーーー
ーのうー月をーーーーーーーー
ーのーのるーとーのるーーーーー
ーーーのーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーー



酒
温
ふ

夜

酒


吉月面金

家傳神女湯　婦人血のみち一包　諸病の妙薬　代百文

製造元　大包金五十包一分五厘　小包五分　相仕れ

熊胆黒丸子　一包代五分

婦人の妙薬　一包代六十四文

製薬本家　四谷の町　瀧澤氏

弘所　元飯田町中坂下　たゑ沢氏

曲亭琴童抄録

つゞき

一勇齋國芳画圖

柳亭種彦作　四十七編　一勇齋国芳画

八犬傳　十八編　假名垣魯文録　三十編　朝霞樓芳幾画

柳春秋　色櫻　山東京伝作　歌川芳虎画

地本問屋　廣岡屋幸助版

壽老与美
八犬伝廿二
篇
曲亭琴童作
一勇斎国芳画
應齋
文政年
18